

2011年9月29日

社会保障審議会年金部会 第三回の論点に関する意見

シンクタンク・ソフィアバンク

副代表

藤沢久美

本日は、外せない先約があり、部会に参加させていただけませんこと、深くお詫び申し上げます。しかしながら、本日の論点であります「マクロ経済スライド」に関しまして、本日の配布資料を拝見し、一言、どうしても意見を申し述べさせていただきたく、書面にて一筆申し上げる次第です。

大変恐縮ですが、事務局様より、以下、代読をいただきますようお願い申し上げます。

現在、我が国において、世代間格差や世代間の不公平が議論となっております。その最たるものが年金制度ではないでしょうか。若年層における年金の未納率の上昇も、就労困難による未納だけでなく、年金制度の不公平感から、納付を拒否している方もいらっしゃるかと推察いたします。

私の Facebook ページ（インターネットのソーシャルネットサービス）においても、年金制度についての意見を度々求め、議論をしておりますが、世代間の不公平を述べる方も多々いらっしゃいます。

その上で、本日の論点にもなっております、「マクロ経済スライド」における「年金額の調整（年金調整率＝物価等上昇率－スライド調整率）」をデフレ下においても厳格に実施すべきことを議論していただきたく存じます。現在の年金を支えている就労世代は、デフレ下における給与の実質的低下を甘んじて受け入れている上に、年金保険料の割合増も受け入れています。これは、就労している国民だけでなく、企業においても同様であります。

年金支給額の減額となる議論を棚あげすることなく、相互扶助の精神に則り、現在を生きる就労世代と年金世代、そして、未来の社会を支える世代とが、互いに支えあうための第一歩として、デフレ下においても機能するマクロ経済スライドの実施の議論をお願い申し上げます。世代間闘争ではなく、世代間協働の実現を年金制度から実施していただきたく存じます。

以上